



「第10回キッズデザイン賞」内閣総理大臣賞など本日発表！

～子どもや子育てに関わる人々の生活を豊かにするデザインを顕彰して10年～

キッズデザイン協議会<内閣府認証NPO、会長：和田勇（積水ハウス株式会社 代表取締役会長 兼 CEO）>は、子どもの安全・安心と健やかな成長発達に役立つ優れた製品・空間・サービス・研究活動などを顕彰する「キッズデザイン賞」の第10回受賞作品 297点の中から、最優秀賞・優秀賞と、本年度より新設された「東京都知事賞」など、優秀作品34点を本日発表いたします。

第10回目を迎えた今回の応募数は過去最高の503点となりました。2007年の第1回以来、全国の企業だけでなく、自治体や教育機関・NPOなど様々な団体から応募いただき、昨今の「子どもの安全」「子どもを産み育てやすい社会づくり」への興味・関心の高まりとともに、応募作品は年々増え続けており、10年間の累計の受賞作品数は2,155点に達しました。

「第10回キッズデザイン賞」構成

内閣総理大臣賞(最優秀賞) 1点								
子どもたちの安全・安心に 貢献するデザイン		子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン			子どもたちを産み育てやすいデザイン			
①子ども部門	②一般部門	③クリエイティブ部門	④リテラシー部門	⑤消費者育成部門	⑥個人・家庭部門	⑦地域・社会部門	⑧男女共同参画部門	
優秀賞 経済産業 大臣賞 1点	経済産業 大臣賞 1点	経済産業 大臣賞 1点	経済産業 大臣賞 1点	消費者 担当大臣賞 1点	少子化対策 担当大臣賞 1点	少子化対策 担当大臣賞 1点	男女共同参画 担当大臣賞 1点	
奨励賞	キッズデザイン 協議会会長賞		キッズデザイン 協議会会長賞		キッズデザイン 協議会会長賞			<復興支援部門> キッズデザイン 協議会会長賞
特別賞	東京都知事賞 ※今回新設		審査委員長特別賞		審査委員長特別賞			TEPIA特別賞
	審査委員長特別賞							
キッズデザイン賞(二次審査通過作品)								

※各賞受賞作品(34点)の一覧は記者発表会後にお渡しします。

● キッズデザイン賞とは？

特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が2006年から主催する、子どもへの配慮、子ども目線を持った良質な製品・空間・サービス・プログラム・調査研究活動などを幅広く顕彰する制度です。「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」「子どもたちを産み育てやすいデザイン」という3つのデザインミッションを実現するため、優れたものを選び、広く社会へ伝えることを目的としています。乳幼児用品や玩具など子ども向けの製品・サービスだけでなく、大人・一般向けに開発されたものでも、子どもの目線を持った良質な商品・施設・プログラム・調査研究活動も対象としています。

今回、第10回目を迎える「キッズデザイン賞」に寄せて、審査委員の方々よりメッセージをいただきました。⇒ 次ページ

「キッズデザイン賞」10周年に寄せて～審査委員からのメッセージ～

※カッコ内：キッズデザイン賞審査委員暦

審査委員長 益田 文和 インダストリアルデザイナー／オープンハウス 代表取締役 （2007年第1回より）



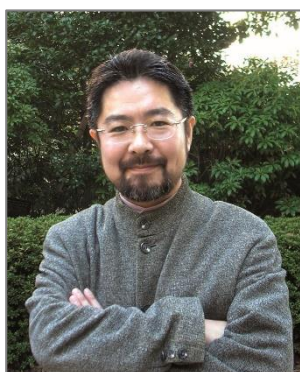
<メッセージ>

キッズデザイン賞は今年で第10回を迎えた。この間、キッズデザインのミッションである子どもたちの安全・安心をどの程度高めることができただろうか。子どもたちの創造性と未来を拓くことにどれだけ貢献することができただろうか。子どもたちを産み育てやすい環境はどれほど整ったと言えるだろうか。問題意識を掘り起こし、改善への試みを誘発することはできたのではないかと思う。と同時に、まだまだこれからだという思いはさらに強い。

<プロフィール>

1949年東京都出身。1973年東京造形大学デザイン学科卒業後、建設会社、デザインオフィスを経て、1978年以降フリーのインダストリアルデザイナーとして家電をはじめとする様々な製品のデザイン開発や、地域産業のデザイン振興など国内外のプロジェクトに関わる。1991年株式会社オープンハウス設立（代表取締役）。2007年よりキッズデザイン賞審査委員、2014年より審査委員長を務める。

副審査委員長 赤池 学 科学技術ジャーナリスト／ユニバーサルデザイン総合研究所 所長 （2007年第1回より）



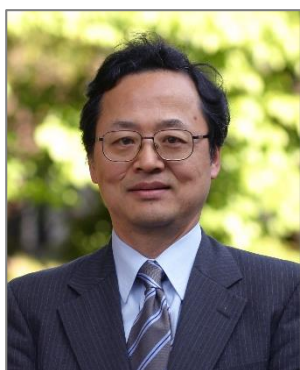
<メッセージ>

ここ最近のトピックスとして注目しているのは、「キッズデザイン賞」を育ててきた経済産業省の環境技術局長に、農林水産省の官僚が就任したことだ。10周年を機に、子どもたちのための安心・安全な食材開発や食育、農林水産業のキャリア教育などを顕彰する「農林水産大臣賞」枠を是非、形にして欲しいと願っている。

<プロフィール>

1958年東京都出身。1981年筑波大学生物学類卒業。(株)ユニバーサルデザイン総合研究所所長として、商品・施設・地域開発を手掛ける傍ら、(公財)科学技術広報財団理事、(社)環境共創イニシアチブ代表理事、(社)CSV開発機構理事長などを務める。ウッドデザイン賞、FOOD ACTION NIPPON AWARDの審査委員長ほか、キッズデザイン賞初代審査委員長を務める。

副審査委員長 無藤 隆 教育心理学者／白梅学園大学 教授 （2012年第6回より）



<メッセージ>

子どものためのデザインは、子どもとまた子どもを困む人々との・環境や活動のすべてをよいものにしていくことを目指します。安全であることの上で、子どもの豊かな可能性を引き出し、育てられないか。それを願う多くの人々の関わり方を支えていけないか。そのための多岐にわたるデザインのあり方を考えていく場となってほしいと思います。

<プロフィール>

1946年東京都出身。1972年東京大学教育学部卒業、同大学院中退。聖心女子大学、お茶の水女子大学を経て、現在、白梅学園大学子ども学部教授。発達・教育心理学や幼児教育などを専門とする。

副審査委員長 持丸 正明 産業技術総合研究所 人間情報研究部門 研究部門長 （2007年第1回より）



<メッセージ>

10年を経て、キッズデザインの考え方とブランドは徐々に国内に定着してきたようです。次の10年はキッズデザインを世界に広め、世界中の子どもたちの笑顔を作ることです。

<プロフィール>

1964年、横浜市出身。1993年 慶應義塾大学大学院後期博士課程修了、博士（工学）。同年より、通商産業省工業技術院 生命工学工業技術研究所、2001年より産業技術総合研究所。同研究所のデジタルヒューマン工学研究センター長、サービス工学研究センター長などを経て、2015年より人間情報研究部門長。身体特性の計測とモデル化、産業応用研究に従事。2007年よりISO TC159/SC3国際議長。2014年より、消費者安全調査委員会・委員長代理。



<メッセージ>

事故による子どもの傷害は多発しています。WHO（世界保健機関）は「見守り」「心構え」では事故の予防はできないと指摘しています。子どもの事故を予防するためには製品や環境の改善を優先する必要があります。KDAは10年前に設立され、約2000件のキッズデザイン賞を創出してきました。この活動をもっと広げて、子どもたちの安全を推進してくださることを大いに期待しています。

<プロフィール>

1947年広島県出身。1974年東京大学医学部卒。東京大学医学部小児科講師、焼津市立総合病院小児科科長、子どもの城小児保健部長を経て、1999年より緑園子どもクリニック（横浜市泉区）院長。
1985年9月、プールの排水口に吸い込まれた中学2年女児を看取ったことから事故予防に取り組み始めた。現在、産業技術総合研究所人工知能研究センター客員研究員、NPO法人Safe Kids Japan理事長、日本小児保健協会傷害予防教育検討会委員長、日本学術会議連携会員。



<メッセージ>

すべての人が子どもの頃を経験していますが、その体験はその人に固有ですし、その記憶は薄れています。そのため、子どものためのデザインをするためには、広い視野からの知見が必要となります。それがキッズデザインです。多くの経験、データ、評価を蓄積して、それに知恵を加えて、子ども達の未来に貢献していければと思います。

<プロフィール>

1986年 通商産業省工業技術院製品科学研究所 入所。
2015年より国立研究開発法人 産業技術総合研究所 自動車ヒューマンファクター研究センター 首席研究員。
国立大学法人名古屋大学客員教授。人間工学一般、車載機器ヒューマンインタフェースの研究、運転行動の解析とモデル化の研究等に従事。
ISO（国際標準化機構）TC22/SC13/WC8（自動車の車載システムのヒューマンインタフェース）の国際エキスパート（一社）日本人間工学会認定人間工学専門家。



<メッセージ>

私たちはより良い未来に向かって何を選択し、何を創造しなければならないのだろうか。
キッズデザイン賞においては、勇気ある決断が必要な時期に差しかかっているように思う。応募される方にとっても、あるいは、審査側にとっても、また、世の中の様々な方々にとってもキッズデザインの目指すところが明白に理解でき、ともに手を携えていけるような、新たな動きが創りだせたらと思う。

<プロフィール>

1956年岡山県出身。1979年武蔵野美術大学卒業後、板橋区立美術館を経て、東京都写真美術館、九州国立博物館はじめ多くのミュージアムづくりに携わり、大阪府立大型児童館ビッグバンの総合プロデューサー、国立近代美術館客員研究員など歴任。有限会社アイデア代表取締役・国立歴史民俗博物館客員准教授、2013年倉敷にIDEA R LABを開設。クリエイティブリユースの実験室とクリエイター・イン・レジデンスを主体とする空間の他に、廃材の分類・ストック・活用を行うマテリアルライブラリーを運営している。現在、日本全国でクリエイティブリユースをキーコンセプトとした公的プロジェクトを複数展開中。



<メッセージ>

子どもや子育てを軽視する社会は、結局「人間」を軽視した社会になります。
決して子どもや子育てのためだけでなく、大人や高齢者も含めた「人間」のありようを見据えた試金石として、真に「人間らしい文明」をデザインするために、キッズデザインはあります。
子どもの知性や適応能力をバカにせず、子どもの「創造性」を育むようなデザインを今後も期待します。

<プロフィール>

1959年生まれ。京都造形芸術大学教授。Earth Literacy Program代表。東京大学大学院文化人類学博士課程修了。地球時代の新たな「人間学」を提起しつつ、ITを駆使した地球環境問題への独自の取り組みを進める。
世界初のデジタル地球儀「触れる地球」や「100万人のキャンドルナイト」、「Water」展（07年）などを企画・制作。2014年2月、丸の内に「触れる地球ミュージアム」を開設。環境セミナー「地球大学」も丸の内主宰。国連UNISDR（国連防災機構）より「国連防災白書2013」のコンセプトデザイン・ディレクターに指名される。

西田 佳史 産業技術総合研究所 人口知能研究センター 首席研究員（2007年第1回より）



<メッセージ>

キッズデザインの柱の一つは、デザインによる子どもの傷害予防にあり、日本初の新しい試みです。キッズデザイン賞が始まってから10年経ち優れたデザインが数多く生み出されましたが、今なお解決が望まれる数多くのテーマがあります。最近では、データやIoTを活用する新しい時代が到来し、キッズデザインにも新たなアングルが加わりつつあります。今後、どんな新たな問題解決を未来の子どものために提供できるのか楽しみです。キッズデザインの考え方は、日々成長する子どもだけではなく、より広く、心身機能や認知機能が変化する人に配慮した社会づくりにも応用可能だと思っています。「生活機能レジリエント社会」を実現するエンジンとしてのキッズデザインを今後も応援したいと思います。

<プロフィール>

1998年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。通商産業省 工業技術院 電子技術総合研究所入所後、産業技術総合研究所 デジタル・ヒューマン工学研究センター 生活・社会機能デザイン研究チーム長などを経て、同研究所 人工知能研究センター首席研究員。2003年より山中龍宏先生とともに子どもの傷害予防学の研究に従事。

橋田 規子 プロダクトデザイナー／芝浦工業大学 教授（2015年第9回より）



<メッセージ>

多くの製品は、様々な世代が混在する環境に置かれています。製品を設計製造している側は大人が殆どで、つい子どものことを忘れがちです。是非キッズデザインの視点を参考に、使いやすく安全な、そして心地よいデザインの製品を作っていっていただきたいと思います。

<プロフィール>

愛知県出身。
東京芸術大学美術学部デザイン科インダストリアルデザイン専攻卒業
TOTO株式会社退社後、2008年NORIKO HASHIDA DESIGN設立
2009年より芝浦工業大学デザイン工学部教授
水廻り器具、オフィス家具、生活用品等のデザインを手掛ける
グッドデザイン賞多数 新しい視点で心と体に心地よいデザインを提案する

ひびの こづえ コスチュームアーティスト（2007年第1回より）



撮影：安彦幸枝氏

<メッセージ>

自分が子どもだった時を忘れずにいたい。カッコ悪い物や子ども扱いして幼稚に表現している物に強い嫌悪感を抱いて、そういう物を平気で与える大人の存在を拒絶し子どもの殻に閉じこもろうとしました。子どもだからこそ良い物を見分ける力がある事を理解しながら物作りをして欲しい。そしてそれが子ども達の憧れになって次の時代に受け継がれ成長するデザインが生まれて欲しい。

<プロフィール>

静岡県出身。東京芸術大学美術学部デザイン科卒業。
コスチューム・アーティストとして広告、演劇、ダンス、バレエ、映画、テレビなどその発表の場は、多岐にわたる。97年作家名を内藤こづえより改める。
NHK Eテレ「にほんごであそぼ」のセット衣装を担当。歌舞伎「コクーン歌舞伎三人吉三」他、森山開次×ひびのこづえ×川瀬浩介によるダンスパフォーマンス「LIVE BONE」を展開中。「ちいさな生きもの研究所」ワークショップを毎月渋谷LOFTで開催中。宮本亜門演出ミュージカル「狸御殿」、森山開次ソロダンス「KATANA」舞台衣装担当。

水戸岡 鋭治 デザイナー／ドーンデザイン研究所 代表（2007年第1回より）



撮影：白鳥真太郎氏

<メッセージ>

私のデザインのテーマは子ども達と次の世代のために笑顔と笑いが生まれる、清く正しく美しいデザインをすること、そして豊かなコミュニケーションが自然に生まれ、仲良く過ごせる時間と空間をデザインすることです。そして社会や個人がデザインというものを特別視しない国、即ちデザインレベルとして、穏かな常識・良識・美意識のある国が夢です。

<プロフィール>

1947年岡山県出身。1965年岡山県立岡山工業高校デザイン科卒業、サンデザイン（大阪）およびSTUDIO SILVIO COPPOLA(MINANO)を経て、ドーンデザイン研究所を設立。建築・鉄道車両・グラフィック・プロダクトなど様々なデザインを行い、主な作品に、クルーズトレイン「ななつ星in九州」などがある。九州旅客鉄道株式会社デザイン顧問、両備グループデザイン顧問、財団法人石橋財団理事。



<メッセージ>

私にとって、キッズデザイン賞の審査に携わることは、デザインに関わる自らの立ち位置を確認するうえで、とても大事なことであり続けています。子ども目線で考えることで、人間にとって最も根源的な環境のありかたに、深いところでつながっていけるように感じるからです。できるだけ多くの方々が、このことを意識することで、子どもたちをとりまく様々な環境がどんどんよくなっていくことを期待したいと思います。

<プロフィール>

1957年京都府宇治市出身。京都大学大学院・ハーバード大学デザイン学部大学院を修了。
設計組織PLACEMEDIA パートナー、国立大学法人・奈良女子大学大学院教授。
ランドスケープアーキテクトとして、様々な環境デザイン、都市デザインに関わる。



撮影：栢木 功氏

<メッセージ>

子どもという存在は未来そのものです。

つまり未来をどう育てるか、考えていくかを問う賞であってほしいと思います。企業であっても有志であっても答えを決め、塗り絵をさせるようなルールを作るのではなく、子どもたち自身の中にある力を活かし信じた想像力のあるものが生まれるとよいと思います。また、生きていく上で地域、隣人との繋がりを深めることなどを導いてあげられるものを期待します。世の中にとって未来をいっしょに育むことを考えるきっかけになれる場でありたいと願ってます。

<プロフィール>

1976年青森県三沢市生まれ。1999年武蔵野美術大学卒業後、博報堂入社。
オンワード樫山、Canonなどの企業広告をはじめ、NHK連続テレビ小説「てっちゃん」のオープニングタイトルや、松任谷由実、Mr.Children、などのミュージシャンのアートワーク、本の装丁、映画・舞台の美術や、動物園や保育園の空間ディレクションを手がけるなど活動は多岐に渡る。株式会社goen®主宰。コミュニケーションディレクター・アートディレクター。武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科客員教授。



<メッセージ>

キッズデザインはその響きの良い名前の中に、子どもに気を配る事の大切さを表しています。それは単に子どものためのデザインではなく、すべてのデザインに「もしそこに子どもがいたら？」という思考を加えようという思想です。子どもだったことを思い出せなくなっても、たとえ子どもが立ち入らない場所でも、身長100センチの世界や何にでも興味を持って触りたくなる気持ちを「今、想像する」ことがデザインにとって求められているのですよ、というメッセージが込められているのです。

<プロフィール>

1980年千葉大学工学部出身。1982年千葉大学工学部工学研究科修了後、旭光学工業<現リコー(株)>在職中イリノイ工科大学で研究員(1990-1991年)。1994年以降筑波大学芸術組織でデザイン教育。2001年から、大学院の感性認知脳科学専攻で感性科学の研究と教育を行っている。同時に、芸術専門学群ではプロダクトデザインの教育の中で、Kid's Size, Kids' Lifeとして子どもサイズの家具をデザインする学生課題や、国際インターンシップとして学生と共に海外演習を行うなど、身の回りから国際社会に広がるデザイン教育に取り組んできた。2001, 2003年グッドデザイン賞審査員。筑波大学芸術系教授、博士（感性科学）

「第10回キッズデザイン賞」実施概要

- 【主 催】 特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会
- 【後 援】 経済産業省、消費者庁
- 【特別協賛】 森ビル株式会社
- 【概 要】 キッズデザイン賞はすべての製品・空間・サービスが対象の顕彰制度です。
「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」「子どもたちを産み育てやすいデザイン」という3つのデザインミッションを実現するための優れた製品・空間・サービスを選び、広く社会へ伝えることを目的としています。受賞作品には「キッズデザインマーク」の使用が認められます。
- 【募集対象】 乳幼児用品や玩具などの子ども用の製品・空間・サービスはもちろん、大人・一般向けに開発されたものでも、子どもへの配慮、子ども目線を持った幅広い製品・空間・サービス・プログラム・調査研究活動などを対象とします。日本国内において2016年8月1日時点で市場に出ているもの、成果が見られる取り組みや活動などが応募対象となります。
- 【募集期間】 2016年3月3日(木)～5月9日(月)
- 【応募方法】 キッズデザイン賞WEBサイト<<http://www.kidsdesignaward.jp/2016/>>より受付
- 【受賞数】 **受賞数 297点**（応募数：503点）
応募者は、キッズデザインの3つのデザインミッションから設けられた以下より応募部門を選択。
- 【部 門】 **《子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン》・・・受賞数 100点**
子ども向け、あるいは一般向けの製品、建築・空間、サービスにおいて、子どもへの安全に配慮されたもの。
- 《子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン》・・・受賞数 115点**
子どもの感性・創造性の育成、多様な知識の習得や運動能力の向上に資する製品、建築・空間、サービスにおいて、新たな発想、工夫、手法があるもの。
- 《子どもたちを産み育てやすいデザイン》・・・受賞数 82点**
親（妊婦含む）や育児に関わる人が利用する製品、建築・空間、サービスにおいて、安全かつ楽しく育児に取り組める工夫がなされたもの。保育園、学校、自治体、地域などで利用されるものを含む。また、子育て期の男女が、育児や仕事、地域との交流などに積極的に参加するための新たな発想、工夫、手法があるもの。
- 【カテゴリー】 **A. プロダクト**
B. 建築・空間
C. コミュニケーション
D. 調査・研究 ※公開を原則として審査料無料
E. 復興支援 ※審査料無料

【報道関係者からのお問合せ先】

「第10回キッズデザイン賞」広報事務局（カーツメディアワークス内） 澤田・田口

TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-mail：info@kartz.co.jp

【企業様からのお問合せ先】

「第10回キッズデザイン賞」事務局 TEL：03-5405-2142 FAX：03-5405-2143（平日10:00-17:00）

主催：特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会 TEL：03-5405-2141 FAX：03-5405-2143



KIDS
DESIGN
AWARD
2016

『第10回キッズデザイン賞』 各賞受賞作品一覧

2016年8月29日

特定非営利活動法人

キッズデザイン協議会

「第10回キッズデザイン賞」優秀作品一覧

受賞タイトル				作品名		応募者／応募団体名		展示 No.	
最優秀賞		内閣総理大臣賞		東京ゆりかご幼稚園+里山教育		学校法人 東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園 渡辺治建築都市設計事務所 リズムデザイン=モヴ 三高設計		1	
子どもたちの安全・安心に	優秀賞	子ども部門	経済産業大臣賞	ダイヤ ベビーベッドかや		株式会社 ダイアコーポレーション		2	
	奨励賞		キッズデザイン協議会 会長賞	左右非対称構造のジュニアシンガード		株式会社 デサント		3	
				litecup(ライトカップ)		株式会社 ティーレックス		4	
	優秀賞	一般部門	経済産業大臣賞	防災ファニチャーによる啓発活動への取り組み		株式会社 コトブキ		5	
	奨励賞		キッズデザイン協議会 会長賞	ロールスクリーン「ソフィー」スマートコード式		株式会社 ニチベイ		6	
				ブルックリンランドリール		株式会社 TIME&GARDEN		7	
	特別賞	東京都知事賞		RK - Chair		株式会社 アボード		8	
		審査委員長特別賞		子どもウィッグ『witton(ウィットン)』		株式会社 グローウィング		9	
				安全配慮引手		積水ハウス株式会社		10	
	子どもたちの創造性と	優秀賞	クリエイティブ部門	経済産業大臣賞	MaBeee(マビー)		ノバリス株式会社		11
奨励賞		キッズデザイン協議会 会長賞		f-pzl(エフパズル)アースカラー12色セット		株式会社 f-pzl		12	
				阿久根めぐみこども園		学校法人 めぐみ学園 株式会社 日比野設計+幼児の城		13	
優秀賞		リテラシー部門	経済産業大臣賞	和食給食応援団		合同会社 五穀豊穡		14	
奨励賞			キッズデザイン協議会 会長賞	あそぶだけ!公園遊具で子どもの体力が グングンのびる!		前橋明 株式会社 講談社 プレイデザインラボ(株式会社ジャクエツ環境事業)		15	
				パティシエ エス コヤマ「未来製作所」		株式会社 パティシエ エス コヤマ「未来製作所」		16	
優秀賞		消費者育成部門	消費者担当大臣賞	JUNIOR SAFE (じゅにあせーふ)		株式会社 三井住友フィナンシャルグループ		17	
奨励賞			キッズデザイン協議会 会長賞	小学校・商店街・企業が一体となって取り組む 「印刷の学校」		凸版印刷株式会社		18	
				EduTownあしたね		東京書籍株式会社		19	
特別賞		審査委員長特別賞		Quut/Cuppi (カッピー)		株式会社 ダッドウェイ		20	
				KodoMotto(こどもっと)		パナホーム株式会社 パナソニック株式会社		21	
やさしいデザインを産み育て		優秀賞	個人・家庭部門	少子化対策担当大臣賞	孫育て専用ほ乳瓶 「ほほほ ほにゅうびん」		BABAラボ(シゴトラボ合同会社)		22
		奨励賞		キッズデザイン協議会 会長賞	たかが洗濯・されど洗濯 ～新家事空間『スマートランドリー』～		株式会社 富士住建		23
	Child Care Web				シーエイチエス子育て文化研究所有限会社		24		
	優秀賞	地域・社会部門	少子化対策担当大臣賞	TSURUMIこどもホスピス		一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト 大成建設株式会社 一級建築士事務所		25	
	奨励賞		キッズデザイン協議会 会長賞	子育てに配慮した住宅のガイドライン		東京都都市整備局		26	
				流山市×TaKaSaGo 駅前送迎保育ステーション		千葉県流山市／社会福祉法人 高砂福祉会		27	
	優秀賞	男女共同参画部門	男女共同参画担当大臣賞	はぐくみプログラム		凸版印刷株式会社 株式会社芸術造形研究所		28	
	奨励賞		キッズデザイン協議会 会長賞	ちちしるべ		イキメン研究所		29	
				トツキトオカ		アマネファクトリー株式会社		30	
	特別賞	審査委員長特別賞		kidsly(キッズリー)		株式会社 リクルートマーケティングパートナーズ		31	
				子育てママをサポートする3ドア冷凍冷蔵庫 CXシリーズ		三菱電機株式会社		32	
TEPIA特別賞				ねじブロック		橋本螺子株式会社		33	
<復興支援部門> キッズデザイン協議会会長賞				MORIUMIUS 森と海と明日へ		MORIUMIUS		34	

- 作品名 **東京ゆりかご幼稚園+里山教育**
- 企業・団体名 **学校法人 東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園／
渡辺治建築都市設計事務所／
リズムデザイン=モウ／三高設計**

概要：

6年かけて見いだした土地は17mの高台で強風とともに雨や雪が吹きつける厳しい環境だった。高台に登る車道をつくり、水はけをよくした高台には、北の強風と南の直射光を遮る木造の大屋根と壁ですごしやすい室内環境をつかった。里山文化を構成する畑と棚田、ビオトープも作られ井戸も掘った。100mの「えんがわ」は外部の活動空間を提供し、教室と里山文化をつなぐ。敷地から繋がる47haの森には奈良時代からある鎌倉古道が通り、夜になると古来から棲み続ける動物たちが今なおやってくる。こどもたちはこうした大自然の中、里山文化を通じて創造性と冒険心をはぐくむ。

**《審査評》**

里山風景になじむ木造平屋の建物は、広い開口部と深い庇によって開放的かつ自然とつながる空間となり、自然換気によってエネルギー消費を抑えた快適な環境をつくりだす。子どもが主体的に環境と関わり、自然、環境から食農、労働といったテーマを一体に捉えた教育は、ESD（持続可能な開発のための教育）に代表されるグローバルな取り組みにつながる。活動内容、地域と地理、建築のすべてが高次元で融合した、懐かしくも新しい教育のあり方は、キッズデザインの理念を示すにふさわしいと考え、最優秀賞とした。

子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン

子ども向け、あるいは一般向けの製品、建築・空間、サービスにおいて、子どもへの安全に配慮されたもの。

【子ども部門】

優秀賞 経済産業大臣賞

展示No.2

■作品名 ダイヤ ベビーベッドかや

■企業・団体名 株式会社 ダイヤコーポレーション

概要：

蚊などの虫やエアコンの冷風から、赤ちゃんを守るベビーベッド専用のかやです。ベッドの脚までしっかりとガードし、虫の侵入を防ぎます。エアコンの冷風が赤ちゃんに直接あたるのをやわらげます。本品は蛍光染料不使用の赤ちゃんに優しいメッシュ生地を採用しています。



《審査評》

近年、デング熱やジカ熱など蚊を媒介とした感染症が問題になっており、世界ではマラリアによって年間40万人以上の乳児が死亡しているとも言われる。子どもは体温が高く発汗も多いため、蚊に刺されやすい。かつてどこの家でも見られた蚊帳は、シンプルながら機能的で、化学物質や機械的機構に頼る必要もない。ベビーベッド専用蚊帳として随所に工夫を凝らし、メッシュ生地は夏のエアコンの冷風が直接当たるのを防ぐ。子どもの安全を守る工夫は、実はこうした日本伝統の知恵の中に潜むことを教える、象徴的な製品である。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.3

■作品名 左右非対称構造のジュニアシンガード
■企業・団体名 株式会社デサント

概要：

サッカーにおいて、必ず付けなくてはならないシンガード。特に小学低学年を対象に、左右のすね・けい骨の構造を考慮しズレや違和感を軽減した左右非対称の3D設計。足を守るだけでなく通気性のある肌面構造でムレを軽減。また子供でも分かり易く「右・左」と漢字で印字。



《審査評》

子どもの身体特徴を考慮し、内部構造を左右非対称な骨格や筋肉の形状にフィットするように設計したことで安全性や違和感の払しょくに貢献した。頸骨やすねの筋肉の形状調査から導かれた安全製品デザインの好例である。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.4

■作品名 litecup (ライトカップ)
■企業・団体名 株式会社ティーレックス

概要：

キャップ上部360度フタをしたままどこからでも飲み逆さにしても、転がしてもこぼれない便利なカップです。明暗を感知するオートセンサー付LEDで光るのでナイトライトとしても使えます。お子様の夜間の水分補給も、飲み物をこぼしてしまう心配がなく安心です。

litecup
sippy cup + nightlight



《審査評》

子どもは汗をかきやすく、身体の水分量も多いため水分補給には留意する必要がある。子育て経験から誕生した、倒してもこぼれず、どこからでも飲める革新的かつ実用的な製品である。夜間の寝室使用での利便性の面でも細かな配慮がある。

優秀賞 経済産業大臣賞

展示No.5

■作品名 防災ファニチャーによる啓発活動への取り組み

■企業・団体名 株式会社コトブキ

※プロダクト・コミュニケーションの作品あわせでの受賞

概要：

「防災ファニチャーによる啓発活動への取り組み」

これまでの震災経験から、人と人のつながり「コミュニティの力」が、いざという時の大きな支えになる事が知られています。日頃子供たちが集う学校や公園で防災ファニチャーを通じて、生活の中で防災を意識し、安全な避難場所、方法を確認。子供や親たちが地域と共に防災を学び、災害を考える仕掛けづくりを行っています。

「コトブキの防災ファニチャー」

災害時には人と人のつながり、コミュニティの力が強い守りの力になると言われます。「防災ファニチャー」は、子供たちが使う公園の遊具、ベンチなどが、いざという時の安全・安心のための施設に変身するファニチャーです。日頃から子供たちに災害に対する心構えを伝え、リスクコミュニケーションを学ぶ機会となります。



《審査評》

自然災害大国・日本において防災教育やインフラ整備は欠かせないが、有事の際にいかに関心を持ち、それを活用できるかを意識する機会は意外と少ない。子どもや親子に身近なパブリックスペースである公園や学校を地域の防災拠点として活用するためのハード、ソフトの総合的な提案である。住民同士のつながりを深め、日常的なコミュニケーションを促すワークショップなど、地域の防災教育のスタンダードモデルとなり得る点を高く評価した。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

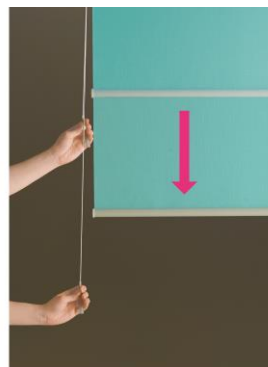
展示No.6

■作品名 ロールスクリーン「ソフィー」スマートコード式
■企業・団体名 株式会社ニチペイ

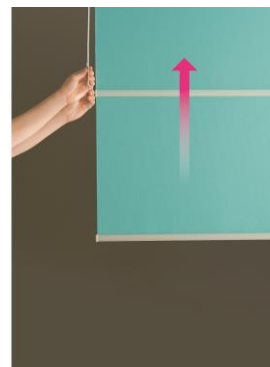
概要：

「ソフィー」スマートコード式は、操作コードが高い位置にあるロールスクリーン。小さなお子様がコードに絡まる心配もないので安心して使用できる。

また、コードがループ状ではなく1本になったことで、安全性と操作性が抜群に向上した。



スクリーンを降ろす場合
コードを下に引くとスクリーンが
引いた分だけ下降します。



スクリーンを上げる場合
コードを少し引くとスクリーンが
自動的に上昇します。

《審査評》

カーテンやブラインド等の操作コードが子どもの首に絡まる事故が報告され対応が急がれている。本製品は、独自機構により、操作性を向上させ、安全で快適な使用を実現した。室内環境と製品の組み合わせによる事故は、子どもの傷害の典型的な特徴であり、他分野においても重要な視点を持つ事例である。



奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.7

■作品名 ブルックリンランドリール
■企業・団体名 株式会社TIME&GARDEN

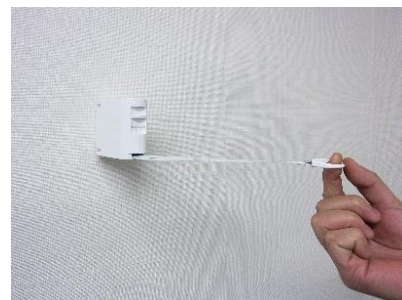
概要：

部屋の意匠性を損なわない文庫本よりも小さいシンプル＆コンパクトなボディに、耐荷重15kg、最長4メートルまで引き出し可能なベルトを内蔵した部屋干し用ベルト製品です。使う時だけ引き出すベルトは、穴加工付。このズレない穴が画期的。ベルトは2方向に使い分けることも可能で、使い勝手に優れた製品です。



《審査評》

防犯や花粉症などの問題から、洗濯物の部屋干しの傾向が顕著である。一方、室内で床置き物の干しに子どもがぶつかったり、場所をとられたりといった課題も残る。本製品は簡単に後付けでき、耐過重性、抗菌・防カビ加工など、安全性を確保しつつ室内使用に配慮した工夫が好印象である。



■作品名 RK - Chair
■企業・団体名 株式会社アボード

概要：

オリジナル素材の硬質フェルトの組み立てキッズチェアです。十分な強度を持ちながら1.2kgと非常に軽量で、素材も全てフェルトなので子供がぶつかっても安全です。組み立て方はとても簡単で、大人と一緒に楽しみながら子供が自分の椅子を作る経験ができます。床や壁を傷つけることもなく、汚れても水洗いが可能です。



《審査評》

強度を確保しつつ、軽量なフェルト素材を採用した椅子であり、活発な子どもが仮にぶつかってもけがにつながりにくい。素材の柔らかさゆえ、保育園等の床を傷めることもない。子どもを育む環境において有用な製品であり、デザインオリティも高く、現場での利便性を熟考した企業の開発姿勢に共感する。

特別賞 審査委員長特別賞

展示No.9

■作品名 子どもウィッグ『witton (ウィットン)』
■企業・団体名 株式会社グローウィング

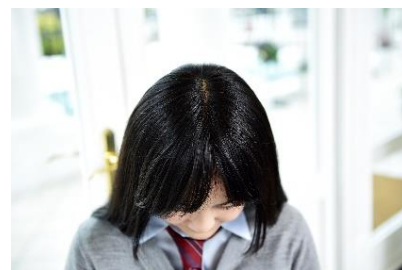
概要：

脱毛症や薬の副作用などで脱毛した子供が人目や外見、ウィッグによる肌ストレスを気にせず使用できる子供ウィッグ。人毛100%で生え際やつむじの完成度にこだわり、頭皮に当たる部分にオーガニックコットンを使用。肌ストレスを最小限に抑えた安全性の高いウィッグ。軽い運動も可能で快適な学校生活をサポートできる。



《審査評》

髪を失っても、肌トラブルにより従来のウィッグを着用できなかった子どもたちが、安全かつ快適に使え素材の工夫を施している。子どもたちの気持ちに寄り添い、見た目の自然さを追求した完成度も良い。



特別賞 審査委員長特別賞

展示No.10

■作品名 安全配慮引手
■企業・団体名 積水ハウス株式会社

概要：

引き戸での指はさみを予防できるように配慮した引き手です。

子どもにもわかりやすいシンプルな機構で、手をかけやすく、引き込まれにくい形状としました。

扉の操作に慣れていない小さな子どもでも、特別な操作を要せず、自然に指はさみを防ぐことができます。



《審査評》

人間工学的に考えると、ちょっとした形状の工夫でも安全対策が可能であることを示した典型的な製品である。高機能化、高性能化になりがちな製品アプローチに対し、シンプルかつリーズナブルに実現している点を評価する。

子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン

子どもの感性・創造性の育成、多様な知識の習得や運動能力の向上に資する製品、
建築・空間、サービスにおいて、新たな発想、工夫、手法があるもの。

【クリエイティブ部門】

優秀賞 経済産業大臣賞

展示No.11

- 作品名 MaBeee (マビー)
- 企業・団体名 ノバルス株式会社

概要：

乾電池で動くだけだった製品を、スマホを使ってコントロールが可能となるIoT製品。スマホを振る、傾ける、声を出すなどによって、これまでは走るだけだった電車玩具のスピードコントロールや、歌声に合わせたイルミネーションの点滅が可能に。作った工作に装着すれば、同様に操作できるようになり、創造性育成に繋がる。



《審査評》

乾電池を本製品に入れ換えるだけで、スマートフォンによる直感的操作で電源のオン・オフや出力の変化ができる独創的な製品。既存の玩具のみならず、自作の乗り物なども自由にコントロールでき、工夫次第で無限の遊び方が引き出せる可能性を秘めている。IoT（Internet of Things）技術が、子どもの創造性や感性を育てる可能性を具体的に示した、卓越したアイデアが光る。

■作品名 f-pzl (エフパズル) アースカラー12色セット
 ■企業・団体名 株式会社f-pzl

概要：

「できた！」の笑顔を贈りたい。

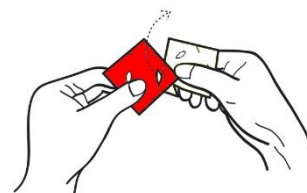
f-pzl(エフパズル)は手だけを使って様々な形を作れるフェルト製の知育玩具です。形もつなぎ方も一つだけなのにねじったり折ったり曲げたり、布の持つ柔らかさ、ファジーさを活かすことでハードな素材ではできない多種多様なカタチを創り出すことができます。12色展開で色の表現も多様にできます。

※対象年齢 5歳～



《審査評》

単一形状の小さな正方形のフェルト片のみのミニマムな素材から、多様な造形を実現できる魅力的な知育玩具である。ベーシックであることが、創造性育成に力を発揮することを示唆している。柔らかな素材ゆえの安全性、豊かなカラーリングも良い。



■作品名 阿久根めぐみこども園
 ■企業・団体名 学校法人めぐみ学園/株式会社 日比野設計+幼児の城

概要：

建物は敷地の与条件から、2階建てながら、高さの異なる4つのフロアにより構成されている。これらの異なる階層は大小様々な10本の階段と3本の滑り台、上り棒及びロープ(綱)によって繋がっており、立体的な回遊空間を形成している。この様な高低差を繋ぐ空間自体が、子供達の好奇心や創造性を刺激する空間となっている。

《審査評》

海に近い傾斜地において旧園舎での水害経験も踏まえ、敷地の高低差を活かした空間構成にデザインへの思いがある。2階建て4フロアからなる立体構成を15カ所の仕掛けでつなぐことで、子どもが自発的に動きたくなる回遊空間を創出している。限られた条件内で好奇心や創造性刺激の場をうまく生み出している。



優秀賞 経済産業大臣賞

展示No.14

■作品名

和食給食応援団

■企業・団体名

合同会社五穀豊穰

和食
給食
応援団

概要：

和食文化継承に意欲をもった和食料理人が結集し「和食給食応援団」を設立。和食料理人が全国の小中学校を訪問し、和食給食献立の調理・提供や食育授業を行っている。また、学校栄養士を対象とした調理実演会で、給食に取り入れやすい和食献立を紹介。これらの活動を通じて未来を担う子どもたちに和食の魅力を伝えている。



《審査評》

和食は国際的にも高く評価されている文化であると同時に、地域の一次産業と結びついた経済的・産業的側面を併せ持っている。本取り組みは、給食という子どもに身近な食の場を活用した和食文化継承への意欲的な試みであり、和食に親しんだ子どもが将来にわたって、和食と地域、産業、文化の関わりに意識を持つ契機となる。子どもが和食に親しみ、献立に留まらない地域や経済との関係を学ぶことで、一次産業の活性化、さらには和食を入り口とした農林水産物の国際競争力強化につながる事が期待される。

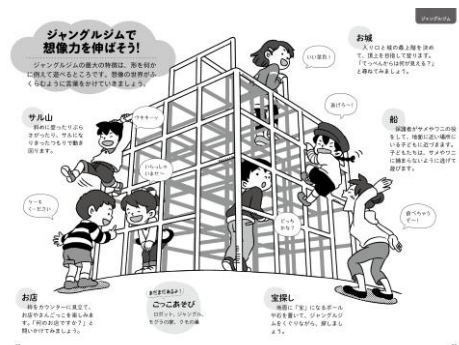
■作品名 あそぶだけ!公園遊具で子どもの体力がグングンのびる!
 ■企業・団体名 前橋明/株式会社講談社/プレイデザインラボ(株式会社ジャクエツ環境事業)

概要:

幼児の保護者を対象に、公園遊具を子どもの体力アップに活用してもらうための様々なあそびのアドバイスを掲載した書籍。近年、外あそび時間の減少により子どもの体力低下が顕著にみられており、日々のあそびから体力・運動能力を向上していくことを目指す。あそびを盛り上げる保護者からの言葉がけの仕方から解説している。

《審査評》

子どもの外遊び時間の減少から、体力低下が問題視されている。本書は幼児の保護者を対象とした、公園遊具を子どもの体力アップに活用するためのヒントが多数収録されている。幼児体育の専門家と遊具メーカーによる独自性ある内容が、公園の遊び方と子どもの体力増進の両立に貢献している。



■作品名 パティシエ エス コヤマ「未来製作所」
 ■企業・団体名 株式会社パティシエ エス コヤマ「未来製作所」

概要:

12歳以下の子どものみしか入れない洋菓子店。
 店内では開発仕立ての最新作を含む約10種のお菓子を販売。「大人は入店不可」の制約をあえて設けることで、子どもは体験したことを一生懸命伝えようと自発的に話をし、大人たちも熱心に耳を傾けるという仕組みを作ることコミュニケーションの活性化を目指した。

《審査評》

若手従業員を指導する中で、幼少期からのコミュニケーション力育成の必要性を感じたという動機から、本業をテーマに「未来の表現者」を育てる発想にたどり着いた。子どもが自らの体験を親や周囲に伝えたいという多彩な仕掛けは、それを聞く大人にも気づきを与えてくれるはずである。

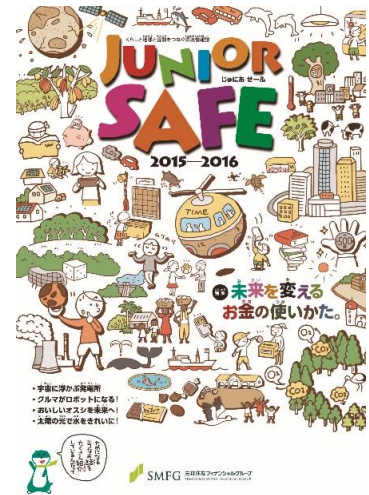


■作品名 JUNIOR SAFE (じゅにあせーふ)

■企業・団体名 株式会社三井住友フィナンシャルグループ

概要：

主に小学校高学年以上を対象に、地球の未来を変えるお金の使い方が学べる環境情報誌。お小遣い500円の使い道として、カカオ農家の支援に充てられるチョコレートや再生紙のノートを買う選択肢を示し、環境のための選択と行動、環境と金融の関わりについて考察を促す。また、環境問題の解決に取り組む人や企業の活動も紹介。



《審査評》

持続可能な消費者市民社会の実現のためには、多様化する消費生活における情報読解力が欠かせない。生産から流通、消費、廃棄へ至るプロセスは、暮らしの中からだけでは見えにくく、幼少期から消費と環境の関係に思いを巡らせる習慣づけが重要である。本冊子では、未来を変えるお金の使い方を考えることにより、一人一人の消費行動が持続可能な消費者市民社会や環境を変えうることを、商品の選択方法や情報の読み取り方から丁寧に伝えており、将来子どもたちが自立した消費者となるための消費者リテラシー育成の面から優れたツールであることを評価した。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.18

■作品名 小学校・商店街・企業が一体となって取り組む「印刷の学校」
■企業・団体名 凸版印刷株式会社

概要：

近隣商店街の協力の下、総合学習の時間を10コマ使用し、凸版印刷の若手社員が先生、小学生がまちのこと編集部の部員となり、商店街のガイドブックを編集する統合学習プログラム。小学生が自ら実社会に出て地元の商店街の人に触れる等、小学生・商店街・企業が一体となって取り組む事で共に学び共に育つ構成となっている。

《審査評》

地域と学校、大手企業の三位一体の取組は、個々の内容の深掘りもさることながら、多様な横展開の可能性を感じさせる。子どもが現実の職業やものづくりを体験することでその意味が深く心に刻まれるはずである。継続的な実施によって内容の進化・深化につながっている点も高く評価できる。



奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.19

■作品名 EduTownあしたね
■企業・団体名 東京書籍株式会社

概要：

「EduTownあしたね」は全国の小中高校の授業で利用されている国内最大級の学習ウェブサイトです。自治体や企業と協力し、働く人のインタビュー(約320人)をウェブサイトに掲載しています。利用学校へ無料でワークシートを配布し、ウェブサイトと合わせてキャリア教育の支援をしています。

《審査評》

自治体や企業が一丸となった支援体制で小中学生が地域の多様な職業を学ぶキャリア教育サイトである。未来の社会や経済を支える子どもたちが社会的にも職業的にも自立することは、消費者教育の面でも重要な視点である。ウェブに留まらず講師派遣による出前授業などリアルな活動への広がりも見えてくる。



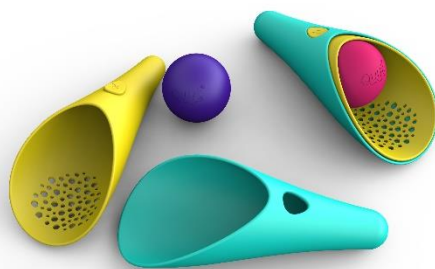
■作品名 Quut /Cuppi (カッピー)
■企業・団体名 株式会社 ダッドウェイ

概要：

カップをもじった「カッピー」。シンプルなデザインでも遊び方は無限大。ビーチで、お風呂で、雪山で。丈夫なので、大人も子ども思い切り遊べます。アイスクリームのようなかわいい見た目は、ギフトとしても人気。丈夫で創造性溢れるQuutシリーズの、最初に手に入る商品として人気商品です。

《審査評》

持ち運びやすくコンパクトに収納できるスタイリッシュな形状ながら、様々な遊び方を誘発する構造を有する点が感性の育みという点で重要である。砂場や風呂場、水辺や雪山など様々な場所で長く遊べるよう耐久性にも配慮されている。



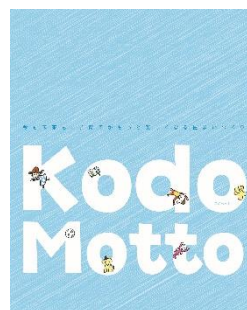
■作品名 KodoMotto (こどもっと)
■企業・団体名 パナホーム株式会社／パナソニック株式会社

概要：

子育て中の両親へ生活者調査を行い、リアルユーザー約1000人の声から導いたコンセプトと、それに基づく8つの暮らし提案。空間として住宅を建設して検証。又、宿泊体験施設として社内開発研究者やお客様が評価し、さらに進化させる取り組み。パナホームとパナソニックが「子どもと住まい研究会」として共同で開発。

《審査評》

子どもの自立心の育成をテーマにした住空間提案における多様なアイデアを、PDCAサイクル（PDCA cycle、plan-do-check-act cycle）を回すように創発する仕組みは新規性がある。生活実態を知ることはキッズデザイン製品開発の重要な入口である。



子どもたちを産み育てやすいデザイン

親（妊婦含む）や育児に関わる人が利用する製品、建築・空間、サービスにおいて、安全かつ楽しく育児に取り組める工夫がなされたもの。保育園、学校、自治体、地域などで利用されるものを含む。また、子育て期の男女が、育児や仕事、地域との交流などに積極的に参加するための新たな発想、工夫、手法があるもの。

【個人・家庭部門】

優秀賞 少子化対策担当大臣賞

展示No.22

■作品名 孫育て専用ほ乳瓶「ほほほ ほにゅうびん」

■企業・団体名 BABAラボ(シゴトラボ合同会社)

概要：

メモリが見やすく、持ちやすい、「孫育て」におすすめな日本製のほ乳瓶です。花びら型のデザインは、指にフィットして扱いやすく、調乳時の落下事故を防ぎます。また、メモリが大きいことで、老眼による調乳ミスや火傷を防止することができます。孫育ての機会が増えるシニアの安全を考えた、初めてのほ乳瓶です。



《審査評》

多世代による子育てを象徴する、“孫育て”のためのほ乳瓶である。開発元は、100歳まで働けるものづくり工房を標榜する、女性を中心とした高齢者によるグループである。ほ乳瓶を実際に使うシニア世代の安全性に着目した点は独創的で、かつリアリティがある。孫育てという市場開拓と高齢者の雇用の場づくり、子育て支援を同時に満たす、少子高齢化時代における良質なモデルの提案として高く評価した。

■作品名 たかが洗濯・されど洗濯 ～新家事空間『スマートランドリー』～
■企業・団体名 株式会社富士住建

概要：

共働きママ達が天気や時間・場所を気にせず、洗濯物を室内でも効率良く乾かすことのできる新しい家事空間の提案である。洗濯は「洗う」から「しまう」まで作業が多く、子供の成長と共に洗濯物の量も増え、多忙なママ達の負担は大きい。洗濯物の乾き、家事動線、省エネ、見た目も考慮した新家事空間で家事負担を軽減する。



《審査評》

最も時短したい家事が洗濯であるという調査結果から、室内干しの実態、乾きやすい空間条件まで、きめ細やかな調査と検証に基づいた提案である。子育て世帯の生活ニーズを先取りし、いちはやく空間機能に落とし込んでいる。明確なメリットを提示できている点が心地よい。



■作品名 Child Care Web
■企業・団体名 シーエイチエス子育て文化研究所有限会社

概要：

Child Care Webは、病院の電子カルテの保育版。保育士や幼稚園教諭らが自らの経験や知識、勘を頼りに行ってきたいわゆる経験主義的な保育実践や関連業務を、子どもの発達等の膨大なデータベースに基づくエビデンスでサポートするICTツール。

《審査評》

子どもひとり一人の特性を認め、個別的援助を行なうことは重要だが、実際にはなかなかハードルが高い。本プロジェクトは、個人的に蓄積されてきた知見を「保育のデザイン」に必要なエビデンスとして収集・分析・可視化した意義ある取り組みである。社会への広がりを見据え、さらなるインターフェースの洗練に期待したい。

保育者の皆さんに質問です。



■作品名

TSURUMIこどもホスピス

■企業・団体名

一般社団法人こどものホスピスプロジェクト／
大成建設株式会社一級建築士事務所

概要：

入院治療を終え在宅看護へ移行した難病の子どもと家族を支援する日本初の医療機関に併設しないこどもホスピス。子どもには遊びや学びを、家族には日々の看護からの一時的休息を提供。公園立地を活かし、地域や社会から孤立しがちな子どもと家族の交流の場となり、地域に開かれ地域全体で子どもと家族を支える拠点を目指す。



《審査評》

医療の進歩に伴い、難病を持つ子どもを在宅で看護するケースは増加傾向にある。このホスピスはこうした子どもの成長支援とその家族の看護負担軽減のために、緑豊かな立地を利用した6つの家とそれをつなぐ道で構成されたビレッジである。医療、教育、保育の専門家や地域ボランティアが個別のケアプランに基づいて支援を行う。広場は一般にも開放され、一般の子どもと共に遊び、家族どうしが日常的に触れ合う地域交流拠点としても機能する。難病を持つ子どもと家族、地域や社会を結びつける、開かれたホスピスとして高く評価した。

■作品名 子育てに配慮した住宅のガイドライン
■企業・団体名 東京都都市整備局

概要：

誰もが安心して子供を産み育てることができ、子供たちが健やかに成長できるまちを実現するために、「住宅」は非常に重要な役割を担います。本ガイドラインは、子育てに適した広さや安全性等を備え、子育て支援施設の設置・サービスの提供のほか、管理・運営にも配慮した優良な住宅を整備する際に考慮すべき事項について取りまとめたものです。

《審査評》

子育て世帯に適した住まいの条件や要素について体系的かつ具体的にまとめた事業者向けの指針である。開発・設計に有用なハードの具体的な数値のみならず、居住者や地域との円滑なコミュニティづくりに関する事項などソフト面もカバーしており、子育て支援住宅の設計に大いに参考になる。生活者の住宅選びにも活かせるだろう。



■作品名 流山市×TaKaSaGo 駅前送迎保育ステーション
■企業・団体名 千葉県流山市/社会福祉法人高砂福祉会

概要：

駅前送迎保育ステーションと市内の全34の保育所(園)を安心安全の7台のバス送迎で繋ぎ、お子様が登降園できるシステムなので、保育園への入園の可能性が大きく広がって、DEWKS(=共働き夫婦)の子育て支援に貢献しています。

朝7:00から最長21:00までの保育が利用でき、保護者の残業や夕食提供にも対応します。

《審査評》

主要駅前に最長21時まで利用可能な送迎ステーションを開設し、市内34カ所の保育所を送迎バスでつなぐシステムで待機児童数の軽減を実現した。10年という実績もあり、子育てする共働き世帯に優しい街としての認知度向上にも貢献している。他自治体、他地域への波及効果の面も評価した。



優秀賞 男女共同参画担当大臣賞

展示No.28

■作品名 はぐくみプログラム

■企業・団体名 凸版印刷株式会社/株式会社芸術造形研究所

概要：

育児休業中の社員を支援する「はぐくみアートサロン」、組織全体で両立を学ぶ「はぐくみセミナー」、育児期社員が悩みやスキルを共有し互いに支えあう「はぐくみサークル」から成るプログラムで、仕事と育児の両立を図る社員が、働きがいを感じながら生き活きと仕事に取り組む事を目指し、その心を支援する仕組み。



《審査評》

育児休業における心理的不安を軽減する、多様なプログラム構成を有する取組で、制度的、経済的な対応に偏りがちな「仕事と育児の両立支援」から一歩進んだ、社員目線での制度設計の素晴らしさは評価できる。セミナーやサークルでは育休中の社員やその上司、育休を考えている社員など幅広い層の参画を促し、組織全体で情報の共有を行っている。親子でのアート作品制作による「はぐくみアートサロン」など独自性ある活動もユニークだ。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.29

■作品名 ちちしるべ
■企業・団体名 イキメン研究所

概要：

冊子デザインも含め、実際に子育て中のメンバーが思いを込めて作った父子手帳。「子どもとの接し方やパートナーとの協力関係に正解はない。」この思いから単なるスキル集ではなく、それぞれの父親・家庭にあった子育てスタイルを見つけていくための考え方、ヒントを目指しました。

《審査評》

自分たちが育った時代とは、全く異なる父親像が求められる時代であり、子育てへの関わり方に迷い、躊躇する男性も多い。こうした現状を受け止めた当事者たちが、同じ立場の男性たちに「心構え」のヒントを提示している。時代性を映す取組が社会課題と解決策を浮き彫りにしている。



奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.30

■作品名 トツキトオカ
■企業・団体名 アマネファクトリー株式会社

概要：

妊娠週数に合わせ成長する赤ちゃんキャラクターや妊娠月齢別アドバイス、ママの体調記録を夫婦で共有しながら、妊娠記録・日記を夫婦で一緒に作ることができます。妊娠への理解や妊娠期間中の夫婦のコミュニケーションをサポートします。

《審査評》

妊娠に対する男性の理解を深め、夫婦のコミュニケーションを促進するというコンセプトは、本部門の主旨に則るものである。子育ての意識の醸成は、母親の妊娠期への理解から始まるという考え方が、夫婦にとっての目標を共有させ、役割分担やパートナーへ思いやりを促すだろう。



特別賞 審査委員長特別賞

展示No.31

■作品名 kidsly (キッズリー)
■企業・団体名 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

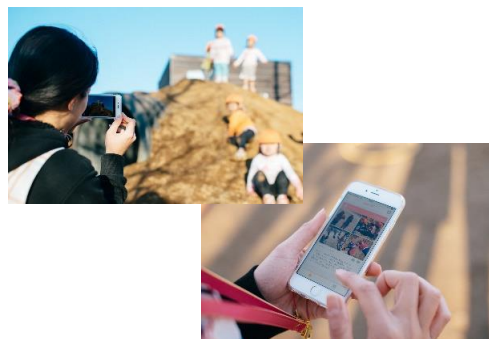
概要：

保育園と保護者をつなぐ、コミュニケーションサービスです。

忙しい朝を助けてくれる「登降園管理」機能や、子どもの様子がもつとわかる「連絡帳」「フォト」機能、非常時にも安心な「個別連絡」機能、プリントに代わる「園からのお知らせ」「カレンダー」機能など、保育の業務を支援しながら、子どもの日常を子育てに関わる全ての人で共有し、コミュニケーションを深めることが出来ます。

《審査評》

保育園と保護者のコミュニケーションを深めるためのICTサービスである。大学との共同研究により、実運用前に大規模な実証実験を行い、保育現場の課題と保護者ニーズを満たす、現代ならではの製品と言える。



特別賞 審査委員長特別賞

展示No.32

■作品名 子育てママをサポートする3ドア冷凍冷蔵庫 CXシリーズ
■企業・団体名 三菱電機株式会社

概要：

チルドは低温の約-3℃～0℃で食品を凍らせずに保存（※1）、肉や魚を生のまま鮮度を長持ちさせ、素材を活かした栄養豊かでおいしいご飯作りをサポートする三菱独自の本格機能「氷点下ストッカー」を、子どもと若年夫妻の3人世帯等にも支持される300～400Lの3ドアタイプに初めて搭載しました。

まとめ買いにも便利で、生のままおいしくストックできるので、毎日のお料理がグーンとラクになります。使用頻度の高い冷蔵室ドアには、小さな子どもから大人まで開閉し易い「フリー アクセスデザイン」を適用しました。

※1：食品の種類や保存料、投入時の状態により凍る場合があります。

《審査評》

子育て世帯の実態に適した中型機にこそ、素材を活かしながら時短できる高機能性が必要、という分析から生まれた冷蔵庫である。食と子育ての接点を、家電メーカーならではのアプローチから具体化した。



TEPIA特別賞

展示No.33

■作品名 ねじブロック
■企業・団体名 橋本螺子株式会社

概要：

「ねじブロック」とは、一般規格ねじと特殊ブロックを自由に組み合わせて立体物を自作できる玩具キットです。ねじは「産業界」の基礎部品。この「脇役的存在を主役に!」をキーフレーズに、ねじを通してものづくりの楽しさを感じてください。

《審査評》

基礎部品である「ねじ」を玩具の主役にする事で、部品から全体へ、全体から部品へという、モノづくりの重要な視点を可視化している点が素晴らしい。身近な製品から宇宙産業に至るまで全産業分野に欠かせないねじの世界をクリエイティビティ高く伝えるアイデアは、機械振興・ものづくり振興を目的とする本賞にふさわしい。



奨励賞

キッズデザイン協議会 会長賞 <復興支援部門>

展示No.34

■作品名 MORIUMIUS 森と海と明日へ
■企業・団体名 MORIUMIUS

概要：

震災により町の8割が壊滅し、人口が4,300人から1,000人になったと言われる、宮城県石巻市雄勝町。その町に2015年夏オープンしたモリウミアスは森と海がつながる豊かな自然を舞台に子ども達が農林漁業や料理、木工、料理などの体験を通じ自然の循環を体感。住民との交流人口による地域の活性も狙う。

《審査評》

東日本大震災から5年が経過し、復興支援のあり方も新たな段階に入りつつある。この地が本来有する豊かな自然、そこで生きる人々の力強さ、経験を子どもたちの生きる力に活かしていこうとする前向きな力強さが、新たな支援のあり方を示唆していると感じる。



【受賞作品検索サイトに第10回受賞作品を掲載！】

第10回を含むすべてのキッズデザイン賞受賞作品がご覧いただける検索サイトが9月末に公開予定。
キーワード検索や分野別、キッズデザインのミッション別など様々な条件で検索ができます。

<URL>

<http://www.kidsdesignaward.jp/search/>

【「セーフティ グッズ フェア with サイエンスアゴラ 2016」で受賞作品約100点を展示！】



子どもの安全に配慮した受賞作品約100点を一堂に集めた、
年間を通して、規模・作品点数ともに最大の展示イベントを11月に開催予定。
生活シーン別にわかりやすく展示します。

■日 時： 2016年11月4日(金)・5日(土)・6日(日)
10時～17時（初日14時開始／最終日16時終了）

■会 場： 東京都立産業技術研究センター 1F・3F

※詳細は下記問い合わせ先までご連絡ください。当フェアの事務局も下記事務局が兼任しております。

<応募企業様からのお問い合わせ先>

「第10回キッズデザイン賞」事務局

TEL：03-5405-2142 FAX：03-5405-2143（平日10:00-17:00）

主催：特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会 TEL：03-5405-2141 FAX：03-5405-2143

*** 受賞作品の画像素材のご要望等につきましては、下記、広報事務局までお問合せ下さい。***

<本資料に関する報道関係の方からのお問い合わせ先>

「第10回キッズデザイン賞」広報事務局（カーツメディアワークス内） 澤田・田口

TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-mail：info@kartz.co.jp